

マルチレベルアプローチで「だれもが行きたくなる学校」を創る

「地域ぐるみの生徒指導改革」の取り組みの成果

私は現在、広島大学で教員養成や相談室運営をしています。それが、それと並行して学校や教育委員会と協働して、学校教育の改革を生徒指導・教育相談の視点から進めています。

広島県広島市、岡山県総社市、宮城県石巻市、兵庫県加古川市、山形県米沢市などでは教育委員会とともに「地域ぐるみの改革」に取り組んできました。また、岐阜市や新潟市、岡山県ではいくつかの学校が主体的に学校改革に取り組んでおり、その支援を行ってきました。

その成果は、不登校や暴力行為の減少、いじめの減少、学力の向上、小一プロブレムや中一ギャップの解消など、多岐にわたります。その詳細は、本書の中でも報告しますが、例えばある学校では、ポリ袋いっぱいになっていた敷地内のタバコの吸い殻が、一年後にはゼロになりました。

ある学校では、五〇名を超えていた徘徊生徒数がゼロになり、教育委員会に寄せられるクレームも激減しました。最も長く実践を継続している岡山県総社市では学習成績の面でも成果が認められ、今年度もほとんどの学年で県内トップクラスの成績となっています。

マルチレベルアプローチと開発グループ

私たちは、自分たちの取り組みをマルチレベルアプローチ (Multi-level Approach) と呼んでいます。略してMLAです。

このアプローチは、私が一人で開発してきたわけではありません。開発に携わったのは、石井眞治、小玉有子、高橋あつ子、金山健一、神山貴弥、沖林洋平、米沢崇、山田洋平、そして私の九名の大学教員と、教員・指導主事・管理職の経験を持つ中林浩子です。専門分野は、教育行政、

教授学習心理学、非行臨床、社会心理学、心理臨床、特別支援教育、発達心理学、学校経営、学校臨床など多岐にわたっています。全員が学校や教育委員会と組んで何らかの活動を行っており、半数は学校の教師や指導主事、管理職だったキャリアがあります。

私たちは一緒に海外の生徒指導を視察したり、年に数回の合宿をしたりして、生徒指導や教員研修のあり方について検討を重ね、さらにはその研修プログラムを実際に教育現場に提供して再検討を加えるなどの取り組みをしてきました。つまり、子どもや教師、学校や教育委員会の現実を踏まえながら、その現実を多様な専門性の立場から検討し、それらを連動させながら、日本版の体系的で包括的な実践プログラムをつくりあげてきたということです。

本書では、その見えてきたことを、なるべくわかりやすく、また、理論と実践の両方を絡み合わせるように紹介していこうと考えています。

マルチレベルアプローチは、 教師を変え、学校を変え、地域を変える

MLAは本当に教師を変え、学校を変え、地域を変えます。それは私たちの実感です。

というのも、実は、私たちが直接かかわっていない学校の中に、私たちの取り組みに共感を覚え、実践を始めた学校がいくつもあります。私たちがMLAに自信をもっているのは、そうした学校でも学校改革に成功している事実があるからです。

本書には、そうした取り組みのエッセンスが書かれています。ぜひご一読いただき、仲間とともに実践に取り組んでみませんか。

二〇一七年八月

栗原 慎二

